



## 大鵬がいたからこそ(下)

### 大人の好きなもの

「巨大大鵬卵焼き」が昭和30、40年代の子どもの好物と言われた。作家で経済企画庁長官を務めた堺屋太一が官僚時代に作った言葉だった。幕内優勝32回の大鵬とV9の巨人。ともに無敵の存在だった。

一方「大洋柏戸水割り」の言い方があった。「阪神柏戸目玉焼き」だったり「西鉄柏戸めんたいこ」と地方ごとに違ってもいた。こちらは「大人の好きなもの」。また本流に対してアンチな気分を表した。

こうした表現を柏戸本人がどう思うかを問われたことがあったが「自分が考えた言葉でもないしね。大鵬は本当に強かったじゃないか」と話した。横綱昇進



後、自らはケガや病気もあって、優勝5回のみと大鵬に水を開けられた苦さは相手への称賛に変えた。

### マゲがあるうちが華

引退は2年先だったが、大鵬に会うたびに言ってきた言葉がある。「頑張った現役を続けるよ。相撲取りはマゲがあるうちが華だよ」。力士の時は土俵上の

一番に向け集中すればいいが、親方業になると相撲協会の業務から部屋経営まで雑多なことが降りかかって、結構大変であることを冗談めかしエールを送った。

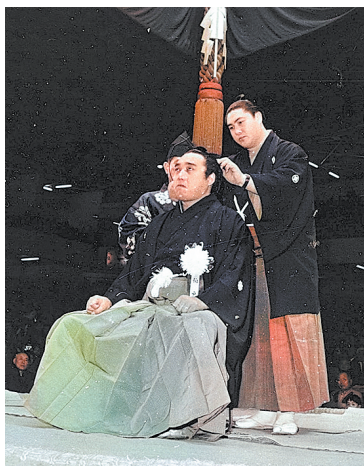
柔の大鵬、剛の柏戸で違いが言われたが趣味でも好対照だった。

横綱朝潮の引退相撲は横綱同時昇進したばかりの柏戸が太刀持ち、露払いの3横綱そるい踏み豪華版だった

### プラモ作りが趣味

大鵬は大柄な体に似合わない細かい作業が得意で、メカ好きだった。現役時代の趣味はプラモデル作り。模型飛行機も好きだった。昔は男の子の趣味としても確かに王道。引退後は自動車の免許も取得した。都内江東区清澄白河の大鵬部屋から両国国技館の片道2・5

きは自分でハンドルの握って運転。脑梗塞で倒れ、左半身が幾分不自由になったが回復した後は「リハビリ代わりだね。これくらい運動できないとね」と気丈に話していたものだ。病気を患って後は相撲協会理事として名古屋場所所部長や相撲教習所長を務めた。対して柏戸は現役時代から食べることや飲むことが



断髪式で大鵬にハサミを入られ、柏戸は万感の表情

だが、大きな趣味はなかった。引退後テレビで見るのは時代劇。水戸黄門など勤善懲悪の分かりやすい筋書きが好みだった。車の運転には関心がなく、運転手兼鏡山部屋マネージャーを雇用していた。

引退後は糖尿病から腎臓を患い、2日に一度人工透析をすることになり、理事職としての職務は長らく審判部長だった。透析は1回6時間だけに地方場所所部長や巡業部長など、出張の多い部署は難しいため、元花形力士として、本場所の目立つ場所で仕事をしてもらいたいとの配慮があった。

### 無敵で堅実無比の弟

こうして角界の一時代を築いた柏戸は協会運営からは少し離れた場所にいた。大鵬自身が健康だったら、協会理事長を任せられたという見方は根強い。一時代前の栃錦・若乃花はともに理事長になったし、一代年寄の後輩・北の湖も理事長になった。やはり現役時代の実績・番付がものをいう世界だ。

あつて、打開できず、今に至る。柏戸は華やかだった横綱同時昇進をはじめ現役時代から火花を散らし、引退後は互いの健康面を気遣い合う間柄になった。おっとりタイプの大鵬が2歳年下の堅実無比の弟の強さに感心しながら、ともに歩を進めた印象もある。

大鵬は2013年1月72歳で亡くなった。58歳で亡くなった柏戸に比べ、14年長生きしたわけだが、それでも一般男性の平均寿命81歳に比べると長寿とは言えなかった。敬称略

(富樫 嘉美)

### 地元弟子屈に記念館

○…大鵬を顕彰するのが出身地、北海道弟子屈町にある大鵬相撲記念館。正門前には大鵬の銅像が建っている。



いる。優勝賜杯など各種レプリカが飾られ、名勝負の映像などが見られる。入場料大人420円、小・中200円。地元では「大鵬煎餅」Ⅱ写真Ⅱが販売され、大鵬が生前熱心に行っていた献血用運搬車「大鵬号」の復活費用に売り上げが充てられている。

毎週火曜日付に掲載